



片瀬山防災だより

第5号 2007年11月07日

11月17日〔土〕は避難・防災訓練の日。地域の大切な行事です。
声をかけ合って、安否確認をして、皆で参加しましょう。

身近に起こるような不安：

10月14日、島根県東部で地震。松江で震度4、茨城県沖でM3.8の地震と、毎日どこかで起きていると思ってしまいます。先頃の箱根では震度5でした。心地よく睡眠中「グラッ」思わず「地震！」と叫んだ。避難の為に戸を開けておこうか、避難袋、帽子は等々・・・そんな時、迷惑気な夫の一言・「大丈夫だ、寝ろ」・・・「これ以上来ないで」と願いつつ、ZZZ。近頃では身近に起こるかも知れない不安を覚えます。現在片瀬山地区での近隣ネットの構築が進んでおり、私は今年度防災に係り連帯活動の意識の高まりを感じ、大変心強く思っております。(1丁目 高橋清子)



悠々自適？自治会活動に関心を！：

仕事人生を完全にリタイアし、拘束されず、悠々自適とはいかずとも悠々自宅でのんびり出来ると思っていたら、自治会長を引き受けるよう突然の要請。その器でもなく本心は何とか逃げたいと思いましたが、引き受けざるを得ないことになってしまいました。自治会役員は住民の誰かが、そしていずれは自分がやらねばならない時が必ずきます。自分がその任を担っていたらと考え、お互いを思いやって対処することが自治会の円満な運営に最も大切な点と思います。無関心だった私の自戒を込めて「次は自分が役員になるかもしれない！」の気持ちで自治会に関心を寄せて頂くようお願いいたします。(5丁目 北村 勝)



まさにその時！：

8月の夜中、東海地震注意情報が放送された時、後悔しました。「しまった！…こうなることはわかっていた。わかっていたのに何もしなかった…」と。そこそこの準備はしています。でも、非常用リュックはここ、ポリタンクはあそこ、簡易トイレはあのあたり、というように、家の中の空きスペースに適当に置いてあり、何がどこに、どれだけ用意してあるのか、よくわかりません。家具も、すべてに転倒防止金具が取り付けられているわけではないし、ミネラルウォーターの買い置きは殆どありません。まさにその時が来ようとしているのにこの有様。あれから少しずつ本気で我が家の状態を改善しています。防災訓練数十回に匹敵する経験でした。(4丁目 鈴木篤子)



片瀬山に地震は起こらない？：

「災害は忘れた頃にやってくる」といわれます。残念ながら大きな地震は片瀬山にも必ずやってきます。しかし大きな地震＝大災害なのでしょうか？片瀬山防災会は「防災への準備、災害発生時の行動や対策づくり」として、自主防災訓練はもとより、救助体制づくりや啓発広報活動にまで積極的に取り組まれておられます。私がなにより感心するのは、それが地域住民の視点に立った継続的な活動であることです。大きな地震は避けられないが、その被害は皆さんの努力で未然に防いだり軽減できるのではないのでしょうか。片瀬山に大きな災害が起こらないために片瀬山防災会の皆さんのこれからの活動に大いに期待しております。(鈴木片瀬市民センター長)





防災ゼミナールを開催しました：

去る9月30日、片瀬山の5つの自治会役員と防災会幹事を対象にした防災ゼミナールが行政関係者を含め90名の参加を得て、片瀬中学で開催されました。大震災が発生して片瀬中学を避難所として利用しなければならなくなった事態に備えて、自治会と防災会が協力して大きな混乱なく避難所の運営と地域の復旧に対応できるよう備える活動の一環です。

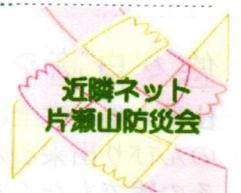
午前中に二つの防災講座があり、午後は総務班、救護班など8つのグループに分かれ、ワークショップ形式で熱心な討議が行われ、数多くの提言が得られました。片瀬山防災会関係者全員の参加による課題解決の具体的討議は大変貴重なものでした。この防災ゼミナールは毎年、自治会役員対象に開催する予定です。（プロジェクト・防災ゼミナール）



近隣ネット作りが進んでいます：（五丁目の例）

昨年からの課題であった「近隣ネット」づくりが五丁目自治会では9月に先陣を切って形が出来上がりました。63世帯が防災ボランティアとして行動してくれることになり、これに当年度の班長13人を加えた76人が近隣ネットのメンバーです。班長は毎年替わりますが、防災ボランティアは原則固定です。

発足後の初仕事として、きたる防災訓練の当日の朝、近隣ネットのメンバーが各世帯を戸別訪問して安否確認を行います。順次、各自治会で近隣ネットづくりが進行中で、11月17日の防災訓練に間に合うよう努力しています。（プロジェクト・近隣ネット）



防災マニュアルの作成を計画中：

先ず片瀬地区や藤沢市の立派なマニュアルがあるのに、果たして必要なのか、考えた。そして、片瀬山が必要とする内容であれば良い、それは「ああしろ、こうしろ」の手引書ではなく、防災に関心が湧かない多くの皆さんに、自分の問題として捉える内容にする事だと判断した。「自分の問題」を浸透させるには気が遠くなる程の時間と労力を要するのが一般的、理念として定着させるのが大変だ。理念というと、難しいとか企業言葉と言う人がいるが、そうではない。内容は簡易だが浸透が難しいのだ。利益を理念とする企業などいないが、環境や利便性などの社会貢献を謳うのが普通だ。街にも理念が必要、この方向でマニュアルなる名称にかかわらず腐心中。（プロジェクト・防災マニュアル）



防災の知恵：寝ている間に

就寝中に地震が起きたら・・・貴方の寝室は安全ですか？

家具は倒れ、インテリアは飛びます。照明は落ちます。ガラスは割れます。

例えば、家具は転倒防止金具などで固定してありますか？

枕もとの小物はどうですか？思わぬことが起こります。

大地震が来たらどうなるかということイメージし、揺れた瞬間はあわてて何かをするのではなく、何もしない。そのために、日頃から様々な工夫をすれば身の安全は図れます。



編集後記：防災訓練があり、今回は早めに発刊。会報が皆さんに読まれ、ファイルに貯まっていますか。会報は年4回発行。編集委員は鈴木、宇田川、仁科です。



発行：片瀬山防災会

〒251-0033 神奈川県藤沢市片瀬山3-22-9

電話0466-25-6739 ファックス25-2222 (岩本)